

\*\*\*\*\*

## 4月29日(みどりの日)『語りのつどい』が開催されました!

\*\*\*\*\*

爽やかな緑の中、しゅぜんじ回廊に市内外より200名のお客様をお迎えし、イベント第1弾『語りのつどい』が開かれました。次々に繰り広げられる語りの世界を満喫しました!

まず始めは創作文学の語り。「魔法使いのチョコレートケーキ」を田所雅子さん(伊豆市)が語り、「笛吹きロバ」を伊藤ひろ子さん(沼津市)が笛の音とともに語りました。

次は伊豆の昔話。「おにのよめさん」を宮崎久子さん(富士市)、



「ししはまのしげどん」他2話を木村みよさん(伊豆市)、「天人女房」を佐々倉祐子さん(静岡市)が語りました。

第2部は、櫻井美紀さん(東京都)がライアーという竖琴を爪弾きながら「エロスとプシュケ」を語りました。

青空の下、たっぷり語りにひたった一日でした。



### 静岡県の昔話 ③ ~『おかるどんぶ』~

昔、小下田と宇久須の村境の海辺近くにどんぶがあった。どんぶというのは川の水が淀んで深くなっているところのことである。

この近くにおかるという若くて美しい女が住んでいた。

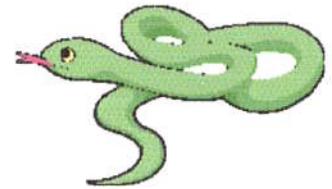
村の若者達は皆おかると一緒にいたいと思っていた。おかるは夜になると若者をひとりずつ誘っては、このどんぶの淵で逢引をくり返した。しかし逢引をした若者は、病人のようにやせこけていく。ひとりの若者が、おかると逢引の約束をし、夕日が落ちるころ家を出た。おかるは海辺に出て若者を待っていた。おかるの着物と帯には、うろこ模様が光っていた。

その夜、二人は遅くまで語り合ったが、明け方には深い眠りにおちた。

異様な気配に若者が目を覚ますと、かたわらに大蛇がとぐろを巻いて眠っている。驚いた若者は無我夢中で家に逃げ帰った。

「あのどんぶには大蛇がいて、夜な夜な男を誘う」と村人はおそろしがってどんぶに寄りつかなくなった。

再話：古屋美枝(伊豆市八木沢在住)



お問い合わせは、  
修善寺図書館 0558-72-9868 までどうぞ!  
『語りの祭り』情報は、  
<http://www.shuzenji.jp/npo/katari/index.htm>  
にも掲載されていますので、御利用ください。

### 編集後記

美しいパンフレットが出来上がりました! 6月30日の申込み締切りも間近となりました。

全国から色々な方が参加してくれることを思うと今からワクワクしています。(Y)(K)

